毎日新聞
2008.11.21

ミャンマーのサイクロン被災者支援

保健省副大臣が謝意

来岡しAMDAなど訪問

今年5月、ミャンマーを襲ったサイクロン「ナルギス」被災者支援にあたった国際医療救援団体「AMDA」（岡山市）とNPO法人「日本・ミャンマー医療人育成支援協会」（同）に謝辞を伝えるため、ミャンマー保健省のパイン・ソウ副大臣、中央ミャンマー医学研究所のトゥン・ナイン・ウー所長ら同国の医療関係者4人が20日、来岡した。24日まで滞在し、ミャンマーの医療機関などと協定を結んでいる岡山大や県赤十字血液センターなどを訪問する予定。

一行が訪れたAMDA本部では菅波茂代表らが出迎え、災害で亡くなった犠牲者に共に黙とうをささげた。菅波代表は「医療チームを迎えてくれて感謝している。相互扶助という考えに基づいて、援助を実施しました。お互いに必要な時は助け合いましょう」と話した。パイン・ソウ副大臣も「AMDAの活動は良く知っている。この度は本当にありがとうございました。二度と起きてほしくないが、今後もし災害が発生した場合は共に協力し合いたい」と応じた。

この日、副大臣らは育成支援協会理事長で岡山大名誉教授の岡田茂さんと、ミャンマー医療関係者の研修を受け入れている岡山大を訪問。同大では、ミャンマーの医療教育システムについてのセミナーに出席し、下部ミャンマー医学研究所のキン・ピョン・チ所長が「（同大と共同で進めている）C型肝炎予防事業などが着実に成果を上げている」と報告した。【石戸諭】

あいさつするパイン・ソウ副大臣（中）とAMDA菅波代表（左）、育成支援協会の岡田理事長（右）

山陽新聞
2008.11.21

ミャンマー医療事情説明

岡山大　保健省副大臣らセミナー

ミャンマーのパイン・ソウ保健省副大臣ら医師団四人が二十日来岡し、岡山市鹿田町の岡山大医学部で同国の医療事情についてのセミナーを行った。同大と同国の医療機関は一九九六年からC型肝炎予防などの共同研究に取り組んでおり、今後の連携方針などを話し合うために訪れた。

ミャンマーの医療事情を説明するパイン・ソウ副大臣

セミナーは医学部基礎研究棟であり、同大医師や関係者ら約三十人が参加。パイン・ソウ副大臣が「子宮がん検診などの共同研究は順調に進んでおり、今後も結核や血液疾患などの分野で協力していきたい」とあいさつ。同省職員から、医師は省管轄の四医科大で六年間かけて育て、このうち一年間をインターンに充てていることなど、同国の教育体制について説明があった。

これに先立ち、国際医療ボランティアAMDA本部（岡山市楢津）を訪れ、五月に直撃したサイクロンの被害支援に感謝を示した。

一行は十七日に来日。二十一日以降は高谷茂男岡山市長らへの表敬訪問や医療機関視察などを行い、二十四日に岡山を離れる。（内田圭助）